

イラスト追加

尼崎市生物多様性地域戦略

- 生き物と共生した四季を実感できるまちをめざして -



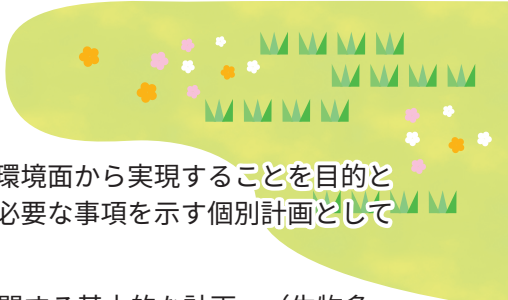
イラスト追加



イラスト追加

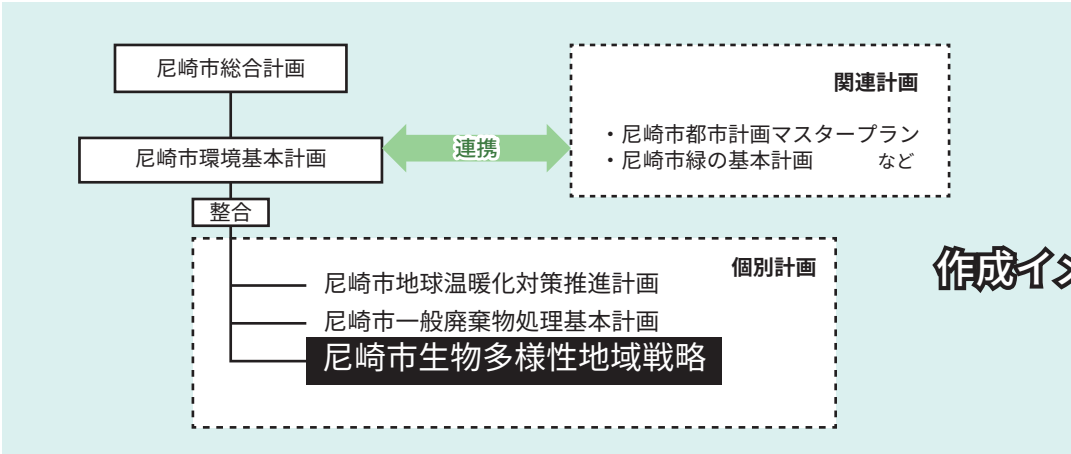
作成イメージ

尼崎市生物多様性地域戦略とは



戦略の概要・位置付け

- ・尼崎市における最上位計画である尼崎市総合計画における「ありたいまち」を環境面から実現することを目的としている環境基本計画のうち生物多様性や生態系の保全などに取り組むうえで必要な事項を示す個別計画として策定します。
- ・生物多様性基本法第13条に基づく「生物の多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画」（生物多様性地域戦略）として策定します。



作成イメージ

対象とする区域

尼崎市域全域

計画の期間

令和6年度から令和15年度までの10年間
社会経済情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて見直しを行います。



生物多様性って何？

■ 尼崎市の自然環境

昭和 11 年（1936 年）～昭和 17 年（1942 年）の戦前には、海岸線から内陸にかけての市内一面に耕作地が広がり、神社の林が点在していました。蓬川、藻川は、水田内を流れ、川と水田は連続して生きものが行き来できる環境がありました。また、武庫川、猪名川・藻川沿いには河畔林が帯状に広がっていました。

昭和 36 年（1961 年）～昭和 44 年（1969 年）頃には、市内には住宅地や工業地域が増え、農地の面積は急激に減少しましたが、現在でも、河川、水路のほか、耕作地、社寺林、河畔林が本市の生態系の主要な構成要素となっています。

ただし、河川は市街地を守るための護岸が整備されたことで川原がほとんどなくなったほか、耕作地や河畔林は水路や河川と分断されてわずかに残されるだけになるなど、生き物にとっては生息、生育しにくい環境となっています。



図 尼崎市の空中写真（1936 年～1942 年頃）
出典：地理院タイル
(<http://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>)

■ 尼崎市の生物多様性

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことを言い、生物多様性条約では、**生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性**という**3つのレベル**で多様性があるとしています。

尼崎市に当てはめてみると、「生態系の多様性」は、河川、水路、耕作地、社寺林、河畔林といった様々なタイプの自然があることと言い換えることができます。また、種の多様性は、そこに様々な種類の生き物が生息、生育していることといえます。遺伝子の多様性とは、同じ種であっても異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があることを指しています。

なぜ、生物多様性を保全しないといけないの？

生物多様性は、開発や乱獲による**種の減少・絶滅、生息・生育地の減少**（第1の危機）、**里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下**（第2の危機）、**外来種などの持ち込みによる生態系のかく乱**（第3の危機）、**地球環境の変化による危機**（第4の危機）に直面しています。

こうした危機から生物多様性を守ることは、生き物だけではなく、私たちの暮らしを豊かにすることにもつながっていきます。また、間接的には、事業活動の中で生物多様性保全を進めていくことで企業価値の向上につながるなど、産業にも大きな影響を与えています。



基盤サービス

様々な生態系を利用する移動性の生物に生息・生育環境を提供しそのライフサイクルを維持するサービス。



供給サービス

農業生態系などによって、食料を供給するサービス。



文化的サービス

人間が自然にふれることで得られる文化的なサービス。人間は自然や生き物にふれることで、審美的、精神的、心理的な面で様々な影響を受けています。



調整サービス

樹木や植物によって、大気汚染や騒音が大幅に低下したり、都市部のヒートアイランド現象が緩和したりするなど、都市の環境を調整するサービス。

生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵み

尼崎市における生物多様性

	現状・課題	見られる生物	
河川	<ul style="list-style-type: none"> アユやウナギといった回遊魚や、絶滅危惧種のミナミメダカなどが確認されています。また、河原には多様な草本群落が広く分布し、鳥類ではオオヨシキリやトビ、昆虫類ではアキアカネやヒメボタル、両生類・爬虫類ではツチガエルやニホンスッポン等、都市部では見られない多くの種が生息・生育しています。一方で、特定外来生物の生息も多数確認されており、その防除が課題となっています。 水辺を活用した環境学習が行われています。継続性をもって、より一層生物多様性への理解や関心を高めていくことが重要です。 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #4a7c59; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> <div style="background-color: #99b3c9; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #2e8b57; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> <div style="background-color: #6a82b8; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> </div>	
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>		
	樹林 (河畔林・社寺林)	<ul style="list-style-type: none"> 古くから残されている自然である河畔林（猪名川自然林・佐撲丘）では良好な状態が維持されています。水辺を含めた多様な環境の中で、多様な動植物の生息環境となっています。特にチビクワガタ等のクワガタムシ類にとって本市における貴重な生息場所となっています。地域団体と協力した保全体制の構築や、市民が生物多様性に触れるための活動に活用する等の取組が重要です。 本市の社寺林は面積が小さいものが多く、河畔林と比較して樹林特有の昆虫類や鳥類は多くないものの、良好な状態が保たれており、現状の環境を保全していくことが重要です。 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #4a7c59; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> <div style="background-color: #6a82b8; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #6a5acd; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> <div style="background-color: #d4b85c; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #2e8b57; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> <div style="background-color: #4682b4; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> </div>
		<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  <div style="background-color: #2e8b57; color: white; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;">景観写真</div> <div style="background-color: #2f4f4f; color: white; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;">景観写真</div> </div>	
農地		<ul style="list-style-type: none"> ヒメミズワラビやコイヌガラシといった現在では希少となった植物や、都市化によって生息地が減少しているヌマガエルやトノサマガエルなどのカエル類などが確認されています。一方で、本市の農地は小規模な区域に分断されており、現在も減少が続いていることから、現状の農地や営農を保全していくことが課題です。 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #4a7c59; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #8b4513; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> <div style="background-color: #6a5acd; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> </div>
		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #4a7c59; color: white; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;">景観写真</div> <div style="background-color: #8b4513; color: white; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;">景観写真</div> <div style="background-color: #6a5acd; color: white; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;">景観写真</div> </div>	
	公園・市街地	<ul style="list-style-type: none"> 西武庫公園など地区公園では多くの生物が見られ、デンジソウやカワチシャなどの希少な植物や多数のトンボ類が確認されています。また樹林性の鳥類の生息場所にもなっています。一方で環境の多様性が少なく、多様な生物のための生息環境の整備が課題です。また、公園内の水域にはアメリカザリガニやオオフサモといった外来生物が確認され、その防除も課題です。 市域のほとんど市街地の本市においても、成徳小学校など小面積でも多様な環境が見られる場所では、多様な種が生息・生育しています。生物多様性の核となる場所周辺の街路樹、緑道の整備などを通じて、緑地の機能を高めていくことが課題です。 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #2e8b57; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> <div style="background-color: #4682b4; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #d4b85c; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="background-color: #2e8b57; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> <div style="background-color: #2e8b57; color: white; padding: 10px; width: 45%;">生物写真</div> </div>
		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #e34a33; color: white; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;">景観写真</div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;">景観写真</div> <div style="background-color: #2e8b57; color: white; padding: 10px; width: 150px; text-align: center;">景観写真</div> </div>	

将来像

樹林・生き物 イメージイラスト

樹林

- ・地域団体や管理者との協働により、豊かな樹林が保全されています。樹林を活用した環境学習も積極的に行われており、保全体制が維持されています。

農地

- ・農地経営の支援や市民の農業体験が充実し、農地が維持されています。さらに、「あまやさい」の地産地消が盛んに行われています。
- ・農地は生物にも配慮して管理されており、農地特有の生物も含めて、多様な在来種がみられます。

農地・農作物・生き物 イメージイラスト

私たちの暮らしは食べ物やきれいな空気・水などの様々な自然からの恩恵に支えられており、このような自然からの恩恵をもたらしてくれる生物多様性を保全することは多様な生き物を守るだけでなく、私たちの暮らしを守ることもつながります。さらには、豊かな生物多様性は気候の調整や自然災害の緩和などにもつながり、人類の存続のためにも必要不可欠なものであり、無関心でいるわけにはいきません。

尼崎は都市化の進展に伴い、過去に市内に広がっていた田園風景の多くは姿を消し、日常的に自然に親しむ機会は限られてしまいましたが、一部は身近な自然として現在も残存しているほか、新たに創出されている緑地や水辺もあります。

こうした状況を踏まえ、私たちの暮らしに必要な生物多様性の価値を理解し、自然に対する感性を育みながら、尼崎の自然の成り立ちを踏まえた身近に四季を実感できるような都市の実現を目指すこととし、次のとおり将来像を定めます。

生き物と共生した四季を実感できるまち あまがさき

市街地・公園・生き物 イメージイラスト

市街地・公園

- ・生物多様性の理解が進み、生物多様性に配慮した商品・サービスの選択や、食品ロス・プラスチックごみの削減が積極的に行われています。
- ・市街地の緑化が進んだことでみどりあふれる市街地が形成され、生物と人々は適切な距離感のもと共存しています。
- ・公園には多様な自然環境がみられ、多様な在来種が生息しています。身近に自然や生物と触れ合える空間として、人々の拠り所となっています。

河川

- ・外来種の適切な防除によって、多様な在来種が見られます。
- ・生物の生息空間へ配慮した川づくりにより、生物だけでなく、川沿いの散歩を楽しむ人々や水遊びを楽しむ子どもたちなど、人々にとっても過ごしやすい空間となっています。

河川・水環境・生き物 イメージイラスト

1 生物多様性を理解し、大切にします

生物多様性という概念を理解し、日常生活や事業活動において生物多様性に配慮して行動します。

指標

指標	令和4年度	令和15年度
生物多様性の認知度 (%)		
自然観察や自然保護活動に参加している市民の割合 (%)		

施策ア

生物多様性や身近な生物に関する理解・関心の醸成

- 生物多様性の概念だけでなく、暮らしや経済活動が生物多様性の恩恵なしには成り立たないことを啓発していくとともに、農業などを体験することで尼崎の生物多様性への理解を深めます。また、気候変動をはじめとする幅広い分野との連携を図る必要があることを啓発します。
- 学校教育において尼崎の生物多様性について学べるプログラムを開発・活用することで子どもたちにも生物多様性の概念・重要性を啓発します。
- 市民参加型の生物調査の実施や市内のフィールドを活用した自然観察会の開催、生物の生息・生育環境に配慮した公園・河川の維持管理、魚つり公園の運営などにより身近に生物と触れ合える機会を設けます。

施策イ

生物多様性に配慮した市民生活・事業活動の普及

- 日常生活や事業活動は様々な資源を消費しながら営まれており、市内外の生物多様性にも影響を及ぼしていることから、環境ラベル商品や環境保全型農作物・地元産農作物の選択、食品ロス・プラスチックごみの削減につながる消費行動など生物多様性の保全を意識した行動の普及を進めます。
- ペットや園芸種については、野生化・逸出などにより地域の生態系に影響を及ぼす可能性があるため、動植物を適正に飼養・栽培することの必要性について啓発します。また、カラス・野良猫などへの対策についても周知していきます。
- 尼崎には大規模な森林はありませんが、大気浄化や洪水緩和などとして森林の恩恵を受けているといえ、森林の適切な維持管理を促していくため、国産木材の利用や森林の公益的機能の啓発に取り組みます。

施策ウ

自然環境の保全・回復に関するモデル的な取組の検討

- 生物多様性の保全・回復に関する取組については、様々な主体が連携しつつ自立的かつ持続的なものとするためのモデル的な取組について検討します。
- 得られた課題・成果などは取りまとめ、他の取組に活かせるよう事例として公表します。

施策エ

生物多様性に関する情報の蓄積・活用

- 尼崎の野生動植物や生態系に関する情報を把握するため、定期的に基礎的な調査を実施するとともに、様々な主体が実施している調査の結果などを収集・整理し、公表していきます。
- 生物調査を行う際には重要種・外来種に関する情報を整理・分析することで生息・生育場所や分布状況の把握に努めます。
- 重要種・外来種、在来種に関する情報を公表することで尼崎での様々な事業・取組での配慮に役立てます。また、開発や緑化の際の生物多様性への配慮の方法・考え方などについてガイドラインなどとして取りまとめることを検討します。

イラストなど

イラストなど

目標 2 生物の生息・生育環境を保全・創出します

身近な自然として古くから残存している樹林や河川だけでなく、人為的に整備する緑地や水辺についても生物の生息・生育環境として保全・創出していきます。

指標

指標	令和 4 年度	令和 15 年度
確認された種の数（種）		
確認された重要種の数（種）		
確認された外来種の数（種）		
市民参加型調査の結果（総合評価）		
緑の面積（ha）		
生物多様性・生態系に関する環境認証の取得数（件）		

施策ア 生物の生息・生育に配慮した身近な自然や緑地・水辺の維持管理

- 河川や河畔林、社寺林、田畑など過去から残存している身近な自然については、尼崎における自然の基礎的な要素として成り立ちなどを考慮しながら保全していきます。
- まとまった緑のある緑地や河川については尼崎における生物の生息・生育環境として拠点・軸となる場所であるため、生活環境に配慮しつつ、適切に維持管理することで、生物

の生息・生育環境としての質を高めるとともに、身近に自然を感じ、触れ合うことができる場としていきます。なお、生物の生息・生育環境は市域に留まるものではないほか、先行している取組が存在する場合もあることから、生態系の連続性に配慮しつつ、必要に応じて管理者・所有者などと連携を図りながら維持管理します。

施策イ 緑化の推進

- 都市化が進展している尼崎においては、緑地を確保しにくいことから様々な機会を的確に捉え、緑化を推進します。また、生物多様性に悪影響を及ぼさない樹種の選定や地域性苗木の活用、草地・樹林・水辺などの要素を適切に配置することにより様々な生物が利用できるような質にも配慮した緑化を促します。

- 現存する貴重な大木や樹林については条例に基づく指定を行うとともに、保護養生に関する費用について支援を行うことなどにより保全します。その他生物多様性の保全に資する管理が行われている区域における取組の支援についても検討していきます。

施策ウ 重要種・外来種への対応

- 地域固有の希少生物の生息・生育環境を保全するとともに、植物については別の場所への避難・移植を検討するほか、生態系や人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼしている侵略的外来種については防除を行います。なお、重要種の保全や外来種の防除については

専門的な知識・技術が必要になることに加え、継続的な取組とするには労力・費用が必要となるため、関係機関や専門家、市民団体など多様な主体との連携・協力のもと取組を進めていきます。

施策エ 生物多様性の保全・回復に関する取組の支援

- 生物多様性の保全・回復を進めるためには、専門的な知識・技術や継続的な取組が必要となることから、適切な情報の提供や費用に対する補助などを行うことで市民活動を支援します。なお、市民活動を支援するにあたって

は、様々な取組の担い手の育成や歴史・文化など地域における固有の価値を尊重した取組となるよう配慮します。

施策オ 生物多様性に配慮した開発の推進

- 都市化が進展している尼崎においては、緑地・水辺を確保しにくいいため、新たな開発が行われる機会や既存の緑地・水辺の改修・再整備の機会などを的確に捉え、生物の生息・生育環境への配慮を促します。また、開発にあたっては生物多様性・生態系に配慮した開発であることを評価できる環境認証（JHEP やABINCなど）取得の普及を進めます。

- 環境影響評価制度の適切な運用を通じ、一定規模以上の事業の実施にあたっては、持続可能なまちづくりにも資する事業となるよう事業者自らによる適正な環境配慮を促進します。

目標3 自然の恵みを活用します

生物多様性を保全することで、もたらされる多様な自然の恵みを暮らしやまちづくりに活かしていきます。

指標

指標	令和4年度	令和15年度
市内に農地が必要だと考えている市民の割合 (%)		
地産地消をしている市民の割合 (%)		

施策ア 農地の保全・活用

- 農地は農作物の生産場所としてだけでなく、生物の生息・生育環境としても特殊な環境でもあることを踏まえ、生産緑地への指定や市民農園の整備・活用などの多様な手法により都市に残された農地の保全を図ります。また、農作物の生産・販売に必要な資材などに補助を行うことで農業経営の支援を行います。
- 尼崎市産の野菜を「あまやさい」としてブランド化し、広く周知するとともに、地産地消を促進していきます。また、伝統野菜である尼諸や武庫・富松一寸ソラマメ、田能の里芋については市民ボランティアの協力を得ながら栽培するとともにその販売を促進することで、尼崎に固有の品種を守り、農業への理解を深めます。

施策イ 自然・生態系を利用した社会課題の解決

- 自然や生物の営みなどがもたらす直接的・副次的な機能・作用をまちづくりに活かすためにグリーンインフラ（自然環境が有する多様な機能を活かしたインフラ整備）やNbS（自然を活用した解決策）という概念を普及させ、活用していきます。
- 公園や街路樹などの緑地を適切に保全・維持管理することで、雨水浸透・雨水貯留機能を向上させ下水道への負荷を軽減するとともに、緑陰の形成や蒸散作用などによるヒートアイランド現象の緩和や暑さ対策に資する取組としていきます。
- 農地を災害発生時に一時避難や負傷者の応急処置の場として使用できるよう防災協力農地として登録し、防災面からも活用していきます。
- 河川の改修時には近自然工法を活用することで身近な自然を適切に保全し、水質浄化機能の維持・向上に繋がります。

■進捗管理・推進体制（市民・事業者・行政の役割）

- 毎年度の取組について把握・取りまとめを行い「環境基本計画年次報告書」として公表することとします。
- 中間見直し（5年目）・改定（10年目）のタイミングで環境に関する取組状況や基礎データの傾向などを整理、評価したうえで、尼崎市環境審議会に報告し、環境政策の方向性などについて意見・助言を受けることとします。

進捗管理

推進体制

PDCA図作成中

事業者の役割

- 事業者の役割・行動についての文章。進捗管理・進捗体制についての文章。

市民の役割

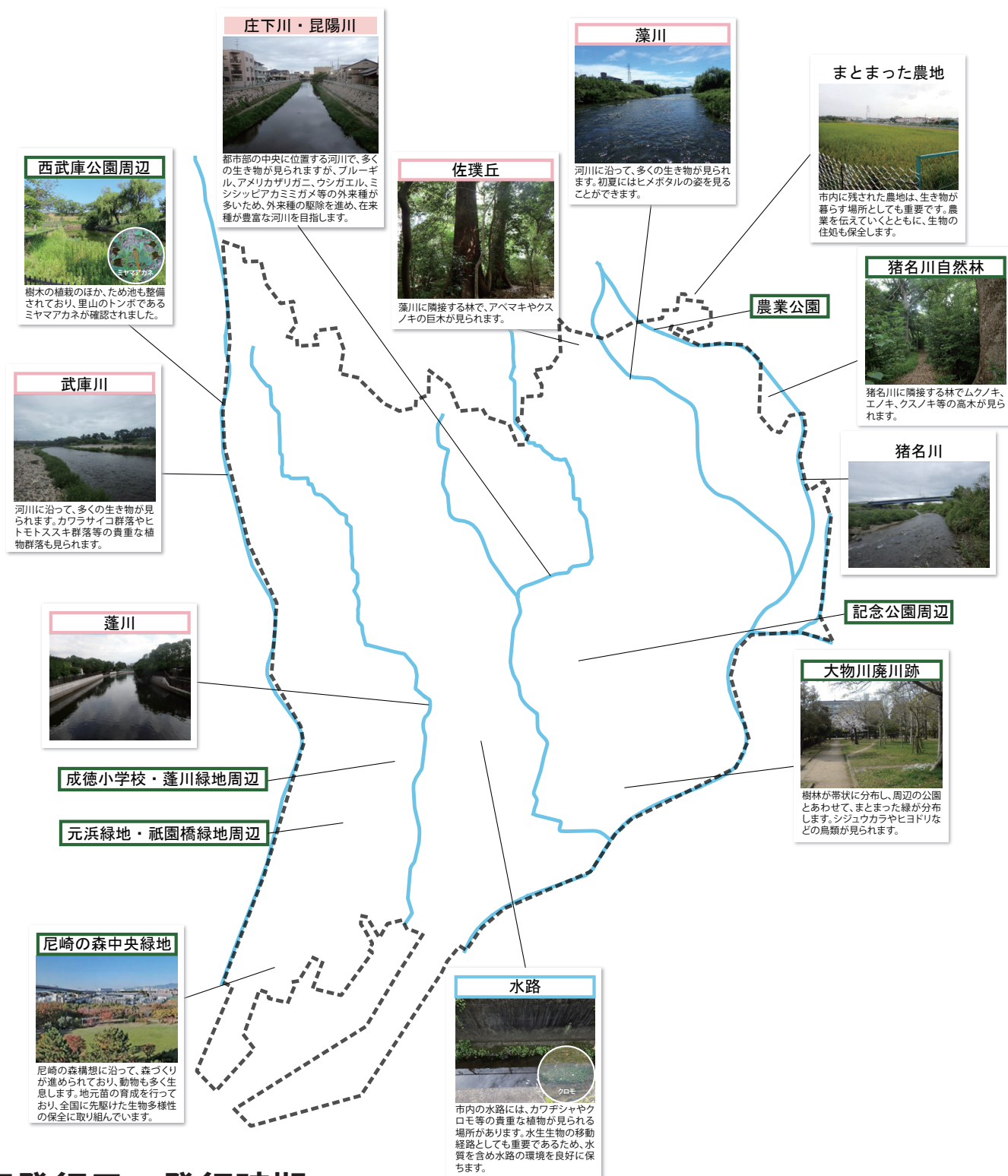
- 市民の役割・行動についての文章。進捗管理・進捗体制についての文章。

市の役割

- 市の役割・行動についての文章。進捗管理・進捗体制についての文章。

戦略で重要視する場所・要素

- ・生物の生息・生育環境として重要、またはポテンシャル（潜在的な可能性）があり、まちづくりに関する様々な取組とバランスを取りながら将来にわたって大切にしていきたい場所（樹林、河川など）・要素（農地、水路、運河・海域、保護樹木・樹林など）を下図の凡例のとおりとし、定期的に生物調査を実施するなどにより現状を把握するほか、施策などを講じる際には一定の配慮を検討するものとしします。



発行元・発行時期

文章